私立

帝京大学

問合せ先　入試センター
〒173-8605　東京都板橋区加賀２-11-１
☎0120-335933　http://www.teikyo-u.ac.jp/

教育目標＆特色

昭和 46 年に医学部を開設。将来の医学・医療の様々な領域に共通して必要な専門的知識・技術を習得し、総合的視野と判断力および人間性を身につけて、医学および関連諸科学の進歩や社会情勢の変化に適応ができるよき医師を育成することを目的としている。板橋キャンパスには医学部、薬学部、医療技術学部の医療系３学部が集結。キャンパス内には先端医療まで習熟した専門医を擁する特定機能病院である医学部附属病院があり、チーム医療を実践的に体感できる最適な学習環境を提供。充実した学習環境を最大限に活用し、最先端の臨床現場を身近に感じることができる。また、世界的視野に立った感染症制御に関わる研究を推進するアジア国際感染症制御研究所、真菌症の診断・治療法の開発など医真菌額において多岐にわたる研究を行う医真菌研究センターなど日々精力的に活動している。

カリキュラムの特色

医学科では、短期間で少数科目を集中的に学習し、次年度に繰り返すという積み上げ方式で学ぶ効果的なカリキュラムを準備し、着実に成長できる学習環境を整えている。１年次は医師としての基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、後期からは正常な身体について、構造・機能など概要の理解を目指す基礎医学の学習が始まる。必修科目として医療法学・医療倫理学、生命科学、人体発生学、解剖学、組織学などの講義と実習がある。２年次は引き続き基礎医学を学び、病気の原因、変化を解明する病理学や薬物の作用を探る薬理学、免疫学について学習。後期からは臨床医学の講義がスタートする。必修科目として生理学、生化学、病理学、薬理学、法医学などがある。３年次は臨床医学を臓器別に学ぶことで効率よく知識を蓄えていく。必修科目として衛生学公衆衛生学、地域医療学、臨床薬理学、腫瘍学、外科学、救急医学、皮膚科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、放射線科学、整形外科学、麻酔科学、リハビリテーション医学などがある。４年次は臨床実習に向けて診察、検査、診断の手順を把握し、疾患を鑑別する訓練(臨床推論)を行い、診断の際に必要となる先端技術・機器を利用する検査法を学ぶ。後期には見学型臨床実習(心臓血管外科、脳神経外科、皮膚科、放射線科、耳鼻咽喉科、眼科、泌尿器科、臨床検査医学、感染制御部、病理学、口腔外科、形成外科)がスタートする。必修科目として医療コミュニケーション、患者安全学、小児科学・小児外科学、産婦人科学、精神神経科学、緩和医療学、症候学、診断学・臨床推論などがある。５年次になると、これまで学習してきた知識や技能を現場で生かす参加型臨床実習(総合内科、呼吸器・アレルギー、消化器、循環器内科、精神神経科・神経内科、小児科、NICU・小児外科、外科、産婦人科、整形外科、麻酔科、救急医学、内科)が始まる。実際の医療現場に立ち、患者面接、病歴記載、身体診察技法、診断プロセス、基本治療について学んでいく。６年次は BSL 実習科または学外実習病院(海外を含む)のいずれかを選択し、指導医のもとで医療チームの一員として診療に参加する。その後は総合講義を受け、医師国家試験に備えることになる。

大学ＤＡＴＡ

◆**沿革**　昭和 46 年に医学部を設置した。
◆学部所在地　＊板橋キャンパス＝問合せ先に同じ。アクセス ＪＲ埼京線十条駅下車、徒歩約 10 分。ＪＲ京浜東北線王子駅から板橋駅行バスで約 10 分，帝京大学病院下車。
◆学部学科・定員　医学部＝医学科 120 名
◆大学院　医学研究科＝医学専攻 70 名
◆おもな付属施設　附属病院、アジア国際感染症制御研究所、医真菌研究センター、統合周産期母子医療センター、ＥＢＭ医療センターなど。
◆**学寮**　設置していない。

参考資料

●**医師国家試験合格率**

区分	全　体				新　卒				既　卒			
	志願者	受験者	合格者	合格率	志願者	受験者	合格者	合格率	志願者	受験者	合格者	合格率
2017	142	115	86	74.8%	122	96	77	80.2%	20	19	9	47.4%
2016	154	128	109	85.2%	135	109	105	96.3%	19	19	4	21.1%
2015	164	133	115	86.5%	117	88	88	100.0%	47	45	27	60.0%

●学校納付金(2018 年度)

区　分	入学手続時	初年度総額	２年次以降
入学金	1,000,000 円	1,000,000 円	-
授業料	1,500,000 円	3,000,000 円	3,000,000 円
施設拡充費	1,000,000 円	2,000,000 円	2,000,000 円
実験実習費	108,000 円	216,000 円	216,000 円
教育維持費	2,700,000 円	2,700,000 円	500,000 円
諸会費	8,100 円	8,100 円	-
合　計	6,316,100 円	8,924,100 円	5,716,000 円
６年間総計	37,504,100 円		

＊入学手続き終了後に任意の学校協力費を募集する。

●奨学金制度

日本学生支援機構奨学金のほかに、福島県地域医療医師確保修学資金、千葉県医師修学資金、茨城県地域医療医師修学資金、静岡県医学修学研修資金、帝京大学地域医療医師確保奨学金、帝京大学公衆衛生学研究医養成奨学金などがある。

2018 年度入試要項

募集人員

区分	一般	セ試利用	推薦	ＡＯ	編入学
医学科	100	10	10	-	–

＊一般の内訳は千葉県地域枠５名、茨城県地域枠１名、静岡県地域枠２名、研究医養成枠３名。地域枠は当該県の地域医療に貢献することを確約できる者が対象。研究医養成枠は公衆衛生学に関する研究に従事することを確約できる者が対象。

試験日程

試験区分		出願期間	試験日	合格発表日	手続締切日
一般入試	1次試験	1月4日～1月 20 日	1月 25 日･26 日･27 日	1月 28 日	
	2次試験		2月2日か3日	2月6日	2月 13 日
センター利用	センター試験	9月 26 日～10 月6日	1月 13 日･14 日	2月7日	
	2次試験	1月4日～1月 12 日	2月 14 日	2月 15 日	2月 21 日
推薦入試		11 月1日～11 月 13 日	11 月 18 日	11 月 24 日	11 月 30 日

＊一般の１次は試験日自由選択制、２次はいずれか希望する１日。
＊入学辞退者の学費返還申出期限は３月 31 日。
＊入学手続き状況によって欠員が生じた場合は、順次繰上げ追加合格者を発表する。

一般入試

試験区分	教科	科目(→は選択科目数)	配点	時間
１次試験	国　語	国総、数Ⅰ・数Ⅱ・数Ａ・数Ｂ(列べ)、物基・物、化基・化、生基・生→２。	各 100	120
	数　学			
	理　科			
	外国語	コ英Ⅰ・コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表Ⅰ・英表Ⅱ。	100	60
２次試験	課題作文	出題されたテーマについてキーワードを使って自分自身の考えを 300 字以内で書く。	-	30
	面　接	個人面接。	-	約 10

＊１次の国総は現代文１問必須、ほかに現代文２問、古文１問、漢文１問の計４問から２問選択。

センター利用入試

試験区分	教科	科目(→は選択科目数)	配点	時間
センター試験	国　語	国、「数Ⅰ、数Ⅰ・数Ａ、数Ⅱ、数Ⅱ・数Ｂ→１」、物、化、生→２。	各 100	80
	数　学			各 60
	理　科			各 60
	外国語	英。	100	80
２次試験	英　語	英語による長文を読み、和文で要旨を 200 字以内、意見を 400 字以内で書く。	300	60
	課題作文	出題されたテーマについてキーワードを使って自分自身の考えを 300 字以内で書く。	-	30
	面　接	個人面接。	-	約 10

＊センター試験の国語は近代のみ、近代＋古典のいずれか高得点のほうを採用。英語は筆記のみ、筆記＋リスニングのいずれか高得点のほうを採用。

推薦入試

①**推薦条件**＝10 名(うち福島県地域枠２名)。②推薦条件＝全体の評定平均値が 4.0 以上の現役。福島県地域枠は県内の高校で、卒業後は県内の公的医療機関に勤務することを確約できる全体の評定平均値が 4.0 以上の現役。②選考方法＝書類審査・基礎能力適性検査・小論文・面接によって選考する。<基礎能力適性検査>　◇数学＝数Ⅰ・数Ⅱ・数Ａ・数Ｂ(列べ)。◇理科＝物基・物、化基・化、生基・生から１科目選択。◇外国語＝コ英Ⅰ・コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・

英表Ⅰ・英表Ⅱ。小論文は出題されたテーマについてキーワードを使って自分自身の考えを 300 字以内で書く。面接は教員２名の個人面接で、時間は 10 分程度。

＊合否判定　一般は１次の合格者に２次を課す。センター利用はセンター試験の合格者に２次を課す。いずれも学科試験は総合点で判定する。面接は参考程度。
＊試験場　一般＝１次は本学板橋キャンパス(ＪＲ埼京線十条駅下車、徒歩約 10 分)、２次は本学板橋キャンパス。センター利用＝２次は本学板橋キャンパス。推薦＝本学板橋キャンパス。
＊受験料　一般 60,000 円、センター利用 35,000 円、推薦 60,000 円

入試のポイント

来春の試験日は、一般１次が 25 日に受験すると東京女子医科大１次のほか相手校の受験日によって国際医療福祉大２次と重複、26 日に受験すると昭和大Ⅰ期１次のほか相手校の受験日によって岩手医科大２次、国際医療福祉大２次、川崎医科大一般２次・地域枠２次と重複、27 日に受験すると獨協医科大１次・地域枠１次、順天堂大東京都地域枠２次、関西医科大前期１次のほか相手校の受験日によって岩手医大２次、国際医療福祉大２次、順天堂大Ａ方式２次・地域枠(東京都以外)２次、川崎医科大一般２次・地域枠２次と重複。２次は２日に受験すると福岡大１次のほか相手校の受験日によって日本医科大前期２次、東海大１次、愛知医科大２次と重複、３日に受験すると東京医科大１次のほか相手校の受験日によって昭和大Ⅰ期２次、北里大一般２次・地域枠２次、東海大１次、兵庫医科大２次ｔｐ重複。セ試利用２次は大阪医科大前期２次・地域枠２次・研究医枠２次、福岡大一般２次・セ試利用２次と重複する。

一般の入試科目は英語のほか、国語・数学・理科の５科目から自由に２科目を選択。国語は５問中現代文１問必須、ほかに現代文２問、古文１問、漢文１問の計４問から２問選択。数学は４問全問必須。理科は物理・化学・生物とも４問全問必須。英語は４問全問必須。選択科目は、当然のこととして得意が生かせる科目選択・問題選択をしたい。２次は課題作文と面接がある。センター利用のセンター試験は英語必須、ほかに国語・数学・理科から自由に２科目を選択。２次は英語の長文読解・課題作文・面接。英語の長文読解は英語による長文を読み、要旨を 200 字以内、意見を 400 字以内で書かせている。

2017 年度入試DATA

●入学者選抜実施状況

区分	募集人員	志願者	受験者	1次合格	2次受験	正規合格	補欠合格	合格者	競争率	入学者
一般	100	8,473	7,695	*	*	*	*	181	42.5	127
セ試利用	10	914	907	*	*	*	*	17	53.4	
推薦	10	24	24	-	-	3	0	3	8.0	3

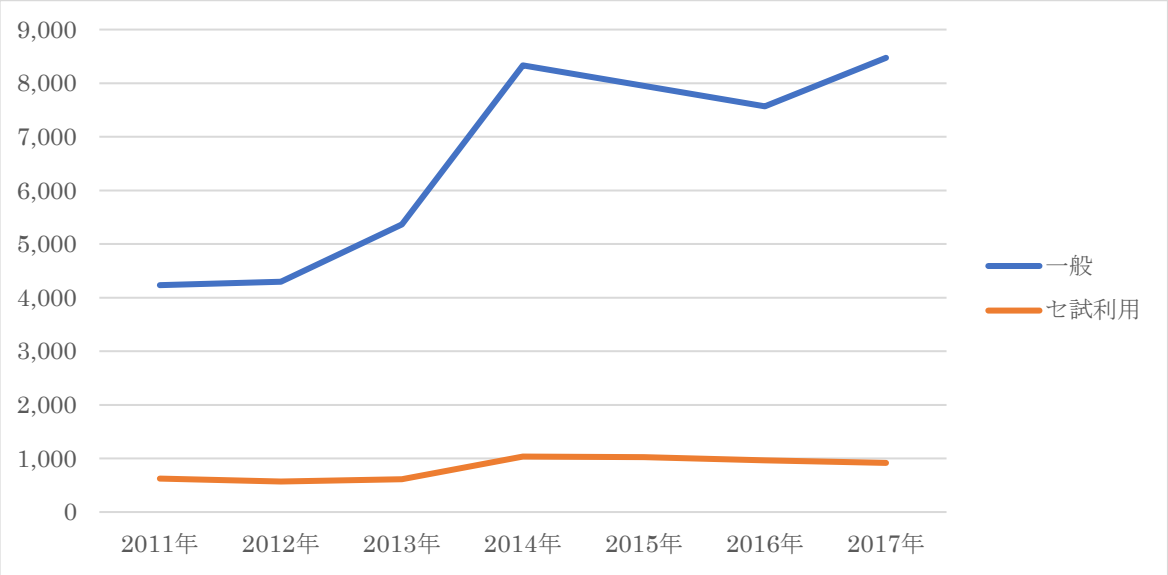
＊補欠者、補欠合格者は非公表。入学手続者は一般 135 人、セ試利用 7 人。

【合格者の成績】

カッコ内は 2016 年度。

区分	配点	最高点	最低点
一般	300(300)	267(271)	213(223)
セ試利用	600(600)	559(528)	471(480)
推薦	300(－)	209(－)	182(－)

【志願者数の推移】



●小論文の内容

一般入試・センター利用入試は課題作文、推薦入試は小論文を課す。いずれも出題されたテーマについてキーワードを使って自分自身の考えを 300 字以内で書かせている。今春の一般は、1 日目が「20 年後の自分について専門分野、総合診療という語句を使って書きなさい」、２日目が「医師の生涯教育について医療の発展、信頼という語句を使って考えを書きなさい」という内容だった。

●面接の内容

一般入試・センター利用入試の各２次と推薦入試で実施する。教員２名の個人面接で、時間は 10 分程度。志望の理由、大学入学後にやりたいこと、親は医学部受験に賛成かなどが聞かれることが多い。